

病防第67号
令和4年1月26日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

令和3年度病害虫発生予察特殊報 第3号

令和4年1月26日
岐 阜 県

1 病害虫名 トルコギキョウ斑点病
Pseudocercospora nephroides (*P. eustomatis*)

2 作物名 トルコギキョウ

3 発生地域 飛騨地域

4 発生状況

令和3年9月に飛騨地域のトルコギキョウ(雨よけ栽培)において、葉に灰色～黒褐色のすす状斑紋が確認された(図1)。岐阜県病害虫防除所で罹病葉を検鏡したところ、分生子(図2)の形態等から *Pseudocercospora nephroides* による本県未発生のトルコギキョウ斑点病であることを確認した。

本病は平成20年に福岡県で初めて確認され、これまでに23県で特殊報が発表されている。

5 病徴

はじめ下位葉に5～10mm程度の退緑斑紋が確認され(図3)、その後、退緑斑紋上で小黑点(分生子座)が多数形成され、灰色～黒色のすす状の病斑が生じる(図4)。このすす状病斑を顕微鏡で観察すると、分生子座(図5、6)や分生子の形成が確認される。病斑は下位葉を中心に発生するが、まん延すると上位葉へと進展する。

6 伝染経路

本病は、盛夏を除きほぼ年間を通じて発生する。特に春から秋の多湿条件下で多発する。生態や生活環についての詳細は不明であるが、育苗中および本ぽで発生し、病斑上に形成される分生子により伝染する。

現在、確認されている宿主植物は、トルコギキョウのみである。

7 防除対策

- (1) 多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の換気を十分に行う。
- (2) 発病葉は見つけ次第速やかに除去し、薬剤防除を行う。耐性菌の発生を防ぐため、作用機構の異なる薬剤をローテーション散布する。
- (3) 発病株は伝染源となるため、直ちに抜き取り、袋に密閉して速やかにほ場外へ持ち出し処分する。
- (4) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)



図1 ほ場での発病状況



図2 病斑上の分生子



図3 初期症状（退緑斑紋）



図4 罹病葉の症状（すす状病斑）

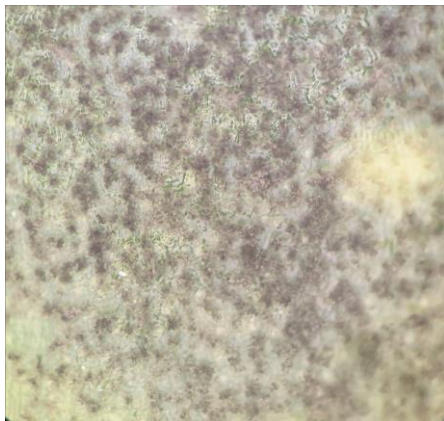


図5 病斑部の拡大（分生子座）



図6 分生子座